



5万分の1地質図幅の新刊

石 卷

ISHINOMAKI

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著 者 滝沢文教・神戸信和・久保和也・  
秦 光男・寒川旭・片田正人

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

そのほか全国主要書店

販売価格 2,670円

石巻地域は 仙台の北東約50km に位置し 北上山地西縁を南流する北上川の河口一帯を占める。石巻港は三陸沖の豊かな漁獲物や北上川流域の農産物を集めて古くより栄えた港であるが、“井内石”や登米スレートの搬出港でもある。北上河口の東岸沿いには、今でも採掘盛んな“井内石”の急崖が断続しており、これが「石巻」という地名の起源と推測される。

本地域は 地質学的に古・中生界から構成される北上山地の南端部にあつて その大半は三畳系(稲井層群)とジュラ系からなる中生層で占められる。上述の井内石は稲井層群最上部の砂質頁岩(伊里前層)であり 本地域内陸上部の半分に近い面積を占め広く分布する。そのほかでは 二畳系登米層が北東端部に 新第三系と第四系が西北部の石巻平野と丘陵地に分布する。また石英閃緑岩一斑れい岩の白亜紀貫入岩類が 中生層中に点在する。これらのなかで中・古生層は南北方向に軸をもって褶曲し 見事な小褶曲構造が随所で観察される。

褶曲構造に伴いスレート劈開が良好に発達し 剪断褶

曲の典型とみなされている。スレート劈開の存在が上述の石材を多量に採掘できる素因である。本地域を中心とした褶曲やスレート劈開に関する解説は 幾多の露頭写真とともに 地質ニュースNo. 291及び300に記述してある。

3列に分かれて向斜状に分布するジュラ紀層は 化石を豊富に産出し また陸成層を含んで堆積相の変化に富む。牡鹿半島のジュラ系は地層学の勉強に好材料となるであろう。リアス式海岸と海の美しい牡鹿半島も最近では尾根沿いに有料道路 北岸に女川原子力発電所が建設されるなど 開発が目ざましい。

断つておろが この地質図は全体として紫や青の色調が強く 本邦の他の地質図幅に比較して“異常”な感覚を与えるかも知れない。一般に 花崗岩類には赤色系がよく用いられるように 三畳系の紫とジュラ系の青も国際的にも半ば常識的色調なのである。碎屑性堆積層として三畳系のこのように広い分布は 本邦ではまれなのである。

地 質 ニ ュ ー ス	第364号	12月号
	定価 ¥ 600	千 実 費
昭和59年12月1日	発 行	
編 集	工業技術院地質調査所	
発 行 人	林 久 雄	
発 行 所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	